



# 情報活用委員会

## ◆ 活動方針

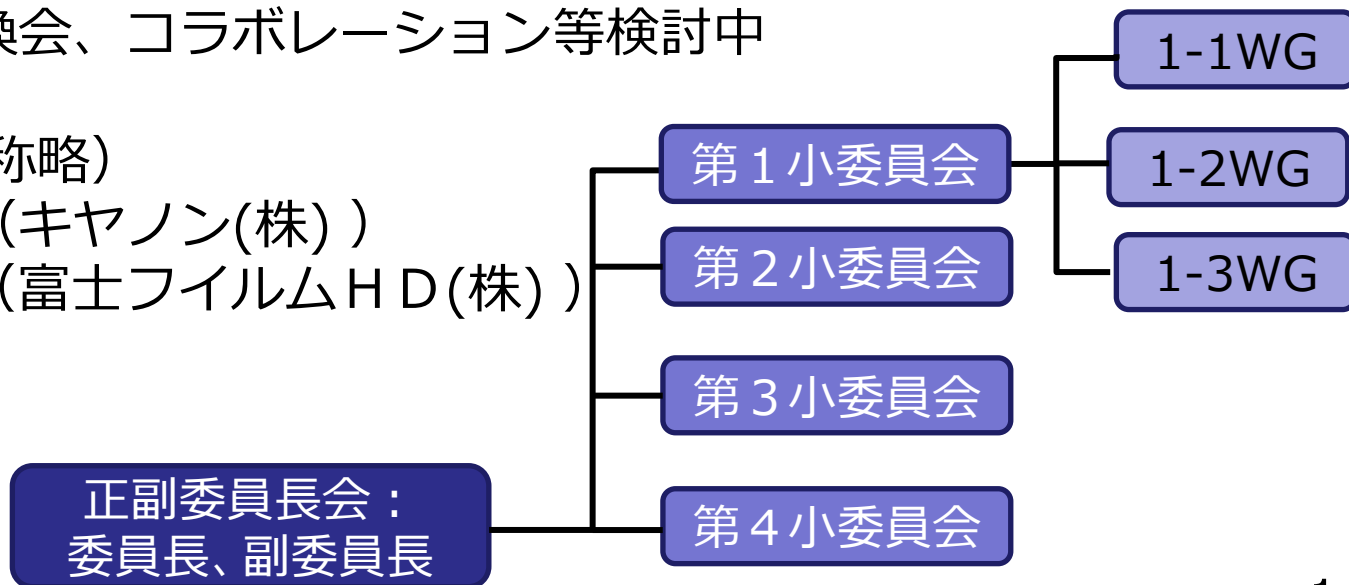
- ・ 企業の国際競争力強化のための情報調査力の向上
- ・ 多様化する情報に対する分析力の向上
- ・ 国内外の特許情報施策への提言

## ◆ 委員会活動

- ・ 4月より 正副委員長会議、全体会議、小委員会単位での活動開始
- ・ 6月25日 臨時全体会、池田副理事長ご挨拶
- ・ 9月17日 中間報告会（全体会）開催
- ・ 外部との意見交換会、コラボレーション等検討中

## ◆ 委員会構成（敬称略）

- ・ 担当理事：池田（キヤノン(株)）
- ・ 委員長：石井（富士フイルムHD(株)）
- ・ 委員数59名





# 情報活用委員会 第1小委員会

## IPランドスケープ等の手法を用いた企業分析の研究

**小委員長**：二木智（サントリーホールディングス）

**WGリーダー**：高橋洋（オルガノ）、富田隆浩（神戸製鋼所）、  
脇田裕之（NISSHA）

**委員数**：30名

**狙い**：

IPランドスケープ手法を用いた情報分析を行うことにより、各社でIPランドスケープ手法を実践する際に参考となる事例を構築し、会員企業へ提供する。

**内容の概略**：

IPランドスケープの適用事例は増えているが、実際の企業経営と紐付けた分析事例は少ない。今回、3つのWGでグローバルメガトレンドから7つのテーマを設定し、企業の経営戦略、技術開発の変遷を分析、さらには将来予測を行う。これにより、会員企業でのIPランドスケープの実践の際に有益となる情報を提供する。

**アウトプット及び対外活動予定**：

事例集の発行および東西部会発表



## 特許情報の有用性に関する フォアキャストとバックキャストの比較検証

**小委員長:**神谷昌男（森永乳業）

**委員数:** 10名

**狙い:**

特許情報を使ってフォアキャストとバックキャストの特徴を明らかにして、特許情報の新しい使い方、フォアキャストとバックキャストの研究開発・事業計画への展開方法などを会員企業に提供する。

**内容の概略:**

「科学技術予測におけるバックキャストとフォアキャストの比較分析」（2020年8月文部科学省）をもとにバックキャスト、フォアキャストのテーマを設定し、当該テーマを特許情報を使って比較分析し、（1）フォアキャスト、バックキャストの特徴、（2）フォアキャスト、バックキャストの転換点（技術進歩のS字カーブの可視化）など点で考察する。

**アウトプット及び対外活動予定:**

2022年度知財管理誌投稿



## 知的財産の価値評価の研究（前年度継続）

**小委員長:**橋本幸一（豊田自動織機）

**委員数:** 10名

**狙い:**

社会ニーズ及び企業ニーズの高い知的財産の価値評価に取組み、前年度成果を土台としつつ、知見を広げ、IPL などの分析の実務の場にて利用可能な情報を会員企業に提供する。

**内容の概略:**

特許スコアと財務情報との相関分析（前年度取組み）を土台としつつ、化学・医薬WG 及び半導体WG に分かれ、業界内における相関の高い企業群、国の違い（例：国内×外国）、ビジネス形態の違い（例：ファブレス）、企業の知財戦略の違い、M&A の影響、などを分析する。前述の分析より、得られた知見に基づき、分析又は価値評価への影響のまとめ、または知見を利用した事例検証を、目的とする。

**アウトプット及び対外活動予定:**

2022年度知財管理誌投稿



## アジア・アフリカ・中南米新興国の特許情報の調査と分析

**小委員長:**青山裕樹（ポリプラスチック）

**委員数:** 8名

**狙い:**

新興諸国に関する方針策定に有用な情報の発信に向け、特許・非特許を含めた各種観点からの分析を行う上での 手法や課題を検討し会員企業に提言する。

（イメージは「新興国（企業）のIPランドスケープ」）

**内容の概略:**

知財情報（出願・権利行使等）に加え、ビジネス（輸出入・消費・投資等）の情報や政策（法令・規制等）の情報を含め、マクロとミクロの視点から多角的に検討し、機会（自社進出・協業等）や リスク（競合進出・訴訟・模倣品等）および現地企業・外国企業の 戦略等を分析する。

**アウトプット及び対外活動予定:**

- ・ 2022年度知財管理誌投稿
- ・ INPIT（新興国等知財情報データベースを運営）との意見交換